

第110期 第2四半期 | 事業報告

2023年1月1日～2023年6月30日

Vol.45

日華化学の“いま”をダイレクトに伝える

GLOBE

グローブ

◆ 事業概況のご報告

- 株主の皆様へ
- トップインタビュー
- 化学品事業/化粧品事業

◆ 中期経営計画

- 中期経営計画「INNOVATION25」
- 業績予想

◆ 2023 第2四半期 TOPICS

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年12月期(第110期)第2四半期決算概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、ロシアのウクライナ侵攻の長期化による国際情勢不安を背景に、米国での高インフレと高金利の影響による消費の後退など世界的な景気後退懸念の状況が継続しております。また、わが国経済は、新型コロナウイルス感染症の対策が進み、景気は緩やかな回復基調が続いているものの、輸入物価やエネルギー価格の上昇などによって高インフレとなり、消費マインドは伸び悩んでおり、国内外とも依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような中、当社グループは中期経営計画のスタートにあたり、この先20年、30年という長期スパンで何を目指していくのかを考え、企業パーパスを「Activate Your Life」と決めました。「Activate Your Life」とは、ステークホルダーとともに、無限に広がる界面カガクのチカラで様々な社会課題を解決し、より豊かな暮らしや輝く未来に貢献することです。

この企業パーパスに基づき、中長期成長ビジョンとして『世界中のお客様から最も信頼



代表取締役社長
江守康昌



決算報告2023年12月期 第2四半期決算概況
(動画10:11) 視聴

されるイノベーション・カンパニー』を掲げ、3か年中期経営計画『INNOVATION25』(2023-2025)を策定しスタートしました。現在、中期経営計画の5大戦略である「事業構造の大転換」「メリハリのある投資」「生産性改革」「サステナブル経営の推進」「大家族主義の進化」の推進に取り組んでいるところであります。

今後も激変していく経営環境をビジネスチャンスへと昇華し、社会からますます必要とされる価値を提供する事業に注力し永続的成長を目指してまいります。

5大戦略は 大きく変更せず
「事業構造の大転換」「メリハリのある投資」
「生産性向上」を加速させることが数値目標達成の鍵

INNOVATION25 「5大戦略」

戦略1	事業構造の大転換	EHD※事業へのシフト
戦略2	メリハリのある投資	注力事業への安定投資、投下資本収益性向上
戦略3	生産性改革	デジタルトランスフォーメーションの積極推進
戦略4	サステナブル経営の推進	持続可能な社会への貢献
戦略5	大家族主義の進化	社員エンゲージメント向上とダイバーシティの推進

※「Environment/環境」「Health/健康・衛生」「Digital/先端材料」



▲「Activate Your Life」
紹介ページ

トップインタビュー

2023年12月期第2四半期の決算を発表されましたが、
どのような内容だったのでしょうか？

当第2四半期は外部要因や化粧品の戦略的プロモーション投資などにより減収減益となりましたが、営業キャッシュフローの改善、有利子負債の減少、および自己資本比率の改善など、着実に財務体質は改善しております。

売上高は243億600万円(前期比2.5%減)、営業利益は4億3,200万円(前期比68.8%減)、経常利益は7億6,600万円(前期比58.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億8,500万円(前期比73.1%減)となりました。

売上高の主な減少要因は、化学品事業における、欧米アパレル在庫調整、並びにコロナ急拡大に伴う中国の低稼働の影響による需要減により、主力の繊維化学品の売上が減少したことです。

セグメント別の業績ですが、一つ目のセグメントである化学品事業は、減収・減益でした。売上高は171億6,000万円(前期比4.9%減)、セグメント利益は4億4,400万円(前期比54.3%減)となりました。

主な要因は、欧米アパレルの想定以上の在庫調整長期化による需要低迷や、第一四半期のコロナ急拡大による中国での想定外の低稼働です。

一方、プラス要因としては、バングラデシュでのビジネスが成長し、また、

インバウンド回復によってリネンサプライ用薬剤の販売が増加しております。

さらに、化学品事業のEHD※シフトを推進中であり、EHD関連では水系ウレタン、抗菌・消臭剤、特殊オイルの販売が堅調で、新たに自動車向け合皮用トップコート剤の販売も始まりました。

二つ目のセグメントである化粧品事業は、増収・減益でした。売上高は68億2,300万円(前期比8.2%増)、セグメント利益は8億5,000万円(前期比30.5%減)となりました。

増収要因としては、美容室来店数の減少が想定以上であったことによる影響を受けましたが、デミ コスメティクスの新商品のスタートが好調で、注力商品も堅調であったことに加え、子会社の山田製薬における受託事業とデミコリアでの販売も好調に推移したことです。

減益の主な要因は、新商品拡販に向けた戦略的プロモーション投資等で販管費が増幅したことです。これは計画通りです。

なお、業績予想は修正いたしました。市況が回復するとともに、各施策への取り組みにより下期は業績が大きく回復する見込みです。

※「Environment/環境」「Health/健康・衛生」「Digital/先端材料」

2023年12月期(第110期)第2四半期決算概況

売上高

243億 6百万円 2.5%減

営業利益

4億 3千 2百万円 68.8%減

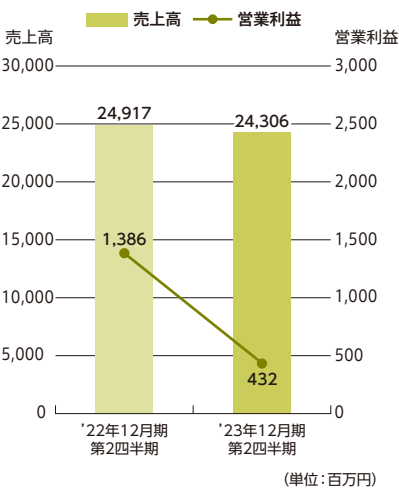
経常利益

7億 6千 6百万円 58.0%減

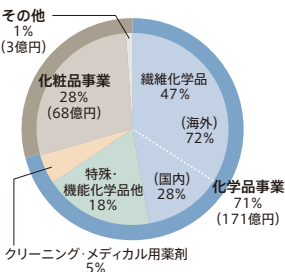
親会社株主に帰属する四半期純利益

2億 8千 5百万円 73.1%減

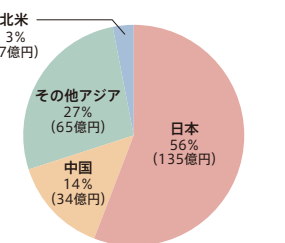
売上高・営業利益の推移



事業別売上高比率



地域別売上高比率



【P3-4における記載数値について】

※すべて連結の情報です ※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年12月期第1 四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年度第2 四半期における各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております ※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております (円グラフは1億円未満を切り捨てて表示しております) ※%表示は前年同期比で小数点第2位を四捨五入して表示しております (円グラフは売上高比率で小数点第1位を四捨五入して表示しており、合計は100%にならない場合があります)

化学品事業

繊維化学品



●繊維加工の一連の工程(精練・漂白・染色・捺染・仕上まで)を網羅する多様な薬剤

機能化学品



●水系ウレタン樹脂等の機能ポリマー
●フッ素・シリコン等の工業用薬剤

クリーニング・
メディカル用薬剤



●業務用クリーニング・リネンサプライ業界向け薬剤
●医療用器具・福祉分野用洗浄剤等

先端材料



●機能性人工核酸、精密制御ポリマー、機能性ナノ材料

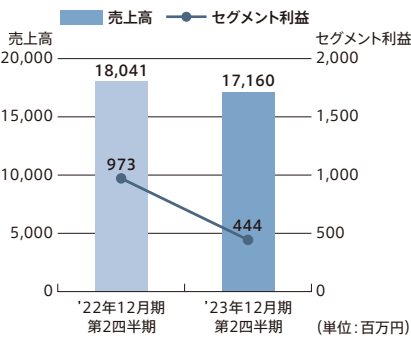


【売上高】◆ 繊維化学品分野

- ✦ バングラビジネスの成長
- ✦ 欧米アパレル在庫調整長期化による需要低迷(想定以上)
- ✦ 1Qのコロナ拡大による中国低稼働(想定外)
- ◆ クリーニング用薬剤分野(国内)
- ✦ インバウンド回復によるリネンサプライ用薬剤販売増

【利 益】✦ 売上減による利益減 (対策)販売拡大や価格改定

〔売上高・セグメント利益の推移〕



化粧品事業

美容室向け髪用化粧品



●「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤等を提供

ODM・OEM

●髪用化粧品の相手先ブランド受託生産

一般通販



●スキンケア基礎化粧品ブランド「アンサーージュ」のインターネットによる通信販売

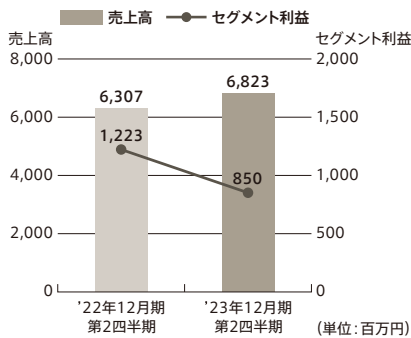


【売上高】✦ 日華化学デミ コスメティクス、新商品スタート好調、注力商品堅調

- ✦ 山田製薬、デミコリア好調
- ✦ 美容室来客数の減少(想定以上)による影響受け

【利 益】✦ 積極的なプロモーション活動実施による広告宣伝費等販管費増(計画通り)

〔売上高・セグメント利益の推移〕



■中期経営計画「INNOVATION25」

弊社は、中期経営計画「INNOVATION25」を掲げており、「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーションカンパニー」を目指し、3年後の2025年12月期には2022年12月期比で、売上高12.6%増の570億円、営業利益52.2%増の40億円、ROS 7%を計画しております。

特に、不透明な経営環境下にあっても、界面科学技術は素材や原料の進化に必須となることからイノベーションチャンスは飛躍的に増えると考えており、「規模」よりも「質」的成長の優先を大きな経営課題とし、「事業構造の転換」「収益性改善」「成長分野への積極投資」を推し進め、「新しい成長スパイラル」を確立する3か年と位置付けております。

■中期経営計画「INNOVATION25」の5大戦略として、

戦略1)事業構造の大転換 EHD事業へのシフト

戦略2)メリハリのある投資 注力事業への安定投資、投下資本収益性向上

戦略3)生産性改革 デジタルトランスフォーメーションの積極推進

戦略4)サステナブル経営の推進 持続可能な社会への貢献

戦略5)大家族主義の進化 社員エンゲージメント向上とダイバーシティの推進に取り組んでおります。

戦略1)事業構造の大転換

大きな社会課題である「E/環境」「H/健康・衛生」「D/先端材料」領域に事業を集中させる「EHDシフト」を推進してまいります。

特に化学品事業のEHD比率は向上余地が大きく、2022年のEHD比率37%を2025年には50%以上とすることを目指しています。また、EHD製品の利益率は35%と従来製品の25%と比較し高利益率であることから、EHD製品の比率が高まれば化学品全体の収益性も高まる計画です。また化粧品事業においては、積極的な投資を行い、強みである商品企画・開発力に加え、従来行ってこなかったマーケティング・プロモーションの本格展開によるシェア拡大により、事業拡大を加速させてまいります。

◎/今後特に注力○/注力

	日華化学が注力するEHD領域	化粧品事業	化学品事業		
		繊維化学品	クリーニング&メディカル	スペシャリティケミカル	
環境 Environment	お客様の生産工程の環境を改善(省エネ・節水、脱炭素、環境改善、廃棄物削減など)	—	薬剤による工程短縮、節水ほか	薬剤による工程短縮、節水ほか	半導体ウェハー加工クレーントリプル回収・リサイクル
健康・衛生 Health	人を健康にする・キレイにする	毛髪・頭皮をより健やかに・キレイに	スポーツウェアなどの機能を進化	健康で清潔な暮らしへ	—
	衛生管理、抗菌・抗ウイルスなど	手指洗浄剤	バイオ由来原料やリサイクル原料	バイオ由来原料やリサイクル原料	—
先端材料 Digital	次世代通信やナノテクノロジーを支える新たな界面課題に対応	—	—	—	高周波用低誘電材料など
	お客様の生産現場のデジタル化を促進	—	—	—	薬剤管理供給システムの提案

戦略2) メリハリのある投資

EHDシフトと効率化への投資に集中し、ROICで事業毎の投資効率を管理してまいります。借入金とは2022年は103億円と2019年の195億円から約半減、自己資本比率も2019年の37%から50%と飛躍的に改善しております。今中期経営計画期間内の投資は営業CF内で行いDELシオを意識したバランスの良い財務体質を目指しております。

	3年間の主な投資計画	ROIC目標(25年)
化粧品	・長期成長を見据えた製造機能拡充 ・積極的なマーケティングなど	➡ 12.0% 積極投資等により短期間では減少
化学品	・EHD関連事業成長のための増産投資や研究開発投資 ・DX、生産性向上投資など	➡ 5.0% 投資の厳選と利益率向上により増加
全社	・新人事システム導入など	➡ 7.0%以上 WACC以上

戦略3) 生産性改革

デジタルトランスフォーメーションの積極推進により、効率アップ&PH(一人当たりの生産性)向上を図ると共に、様々なデータを分析・活用することにより新たな価値創出につなげてまいります。

戦略4) サステナブル経営の推進

環境分野では地球環境をもっときれいに、くらしの分野では人々のくらしと生活を快適に、社会分野では社会をより豊かに、を重要課題としております。目標値として2030年までにグループ全体のCO2実質排出量を2018年比30%削減しておりますが、2022年にはすでに24%の削減をしています。また、コロナ禍における福井県内の中学生の修学旅行の受け入れや、美容師を目指す美容学校の生徒を対象として独自の奨学金制度を設立。少子化や働き方改革による美容業界の課題解決を目指し、学生をバックアップしております。

マテリアリティ (重要課題)

環境	くらし	社会
地球環境をもっときれいに	人々のくらしと生活を快適に	社会をより豊かに
・グループ全体のCO2実質排出量削減 ・EHD事業による社会課題を解決する事業活動 ・仕事を通じた社会貢献活動の推進 など		

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

戦略5) 大家族主義の進化

弊社の掲げるEHDシフトにより、会社も個人も社会課題の解決に向き合い、自ら難しい仕事に挑み成長を惜しまない社員の取組みや成果を公正に評価することで、ひとりひとりの仕事のやりがいや楽しさが高まる、この様な循環で持てる力を最大限に発揮できる、厳しくも温かい大家族主義の実現を進化させてまいります。

『EHDシフト』

- ・会社も個人も社会課題解決に向き合う
- ・仕事のやりがい・楽しさが高まる

社員と会社の絆
エンゲージメント

チャレンジ

- ・自ら難しい仕事に挑む
- ・成長の努力を惜しまない

人事制度の大方針

- ・成果は「公正に」評価

厳しくも温かい
大家族主義

■業績予想

2023年12月期通期連結・配当予想と施策について

2023年12月期の業績予想は、売上高510億円、営業利益21億円、経常利益24億円、親会社株主に帰属する当期純利益13億円を見込んでおり、年間配当は、30円から32円と、2円の増配を予定しています。

施策といたしましては、メリハリのある投資と高利益率の化粧品への注力を掲げ、製品の拡販を推進してまいります。

	施策	進捗状況
化粧品事業	■ 利益率のアップ ・高利益率のEHD領域製品販売比率を高める(=EHDシフト) ・業務の効率化(営業・研究・生産・バックオフィス等全職種)	・EHD需要増に対する販売戦略推進中 ・新規フッ素フリー撥水剤上市 ・研究基幹システム、データ分析システム等、着実に運用開始・定着化
	■ 海外でのEHD製品の拡販	・水系ウレタン、抗菌・消臭剤、特殊オイル販売拡大 ・自動車向け合皮用トップコート剤新規販売開始(現在2ヵ国)
化粧品事業	■ 大型新ブランド「DEMI DO(デミドゥ)」新発売(4月)	・サロンの反応良好で販売好調、デジタルプロモーション奏功
	■ 基幹ヘアカラーブランドのフルリニューアル「トイロクシオン」(6月)	・6/8予定通り販売開始し順調に出荷、WEB広告経由サンプル申込好調、サロン関心喚起奏功
	■ 広告メディアへの露出、SNSなどを活用したデジタルプロモーションの強化	・4月/全国5大都市駅で大規模交通広告、都内主要バス停広告掲出

2023 第2四半期 TOPICS

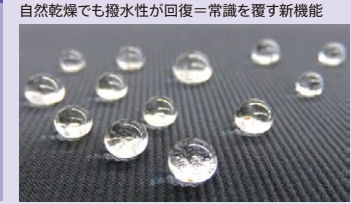
4月 「DEMI DO(デミドゥ)」日本で販売好調、韓国でも発売決定「DEMI DO MEN」9月発売予定



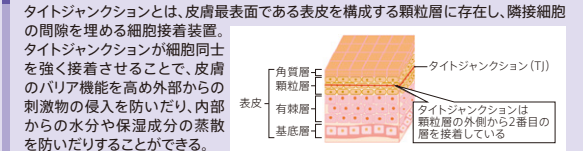
6月 デミコスメティクスより基幹ヘアカラー「トイロクシオン」6月8日発売販売好調



6月 新規フッ素フリー撥水剤「NEOSEED NR-8844」発表フッ素フリーで高い撥水機能を実現



7月 名古屋大学と共同で皮膚の水分保持等に関与するタイトジャンクションの機能性を確認髪の悩みを抱える人々に向けたスカルプケア商品の開発を目指す



7月 バングラデシュ経済特区(BSEZ)に駐在員事務所から現地法人化へ向けた倉庫兼工場建設



連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 2022年12月31日	当第2四半期 連結会計期間 2023年6月30日
流動資産	29,855	29,530
固定資産		
有形固定資産	22,411	22,274
無形固定資産	399	396
投資その他の資産	3,455	3,380
資産合計	56,122	55,582
流動負債	15,987	14,728
固定負債	9,742	9,163
負債合計	25,729	23,891
株主資本		
資本金	2,898	2,898
資本剰余金	2,951	2,951
利益剰余金	21,006	20,991
自己株式	▲1,449	▲1,436
純資産合計	30,392	31,690
負債純資産合計	56,122	55,582

大株主(上位10名)

(単位:千株)

有 限 会 社 江 守 プ ラ ン ニ ン グ	2,370	14.63%
日 華 共 栄 会 社	1,726	10.66%
長 瀬 産 業 株 式 会 社	1,407	8.69%
株 式 会 社 日 本 カ ス ト ディ 銀 行 (信 託 口)	693	4.28%
日 華 化 学 株 式 有 限 公 司	662	4.09%
日 本 マ ス タ ー ト ラ ス ト 信 託 銀 行 株 式 会 社 (信 託 口)	575	3.55%
公 益 財 団 法 人 江 守 ア ジ ア 留 学 生 育 英 会	500	3.09%
株 式 会 社 福 井 銀 行	344	2.12%
宗 教 法 人 大 喜 寺	268	1.66%
I N T E R A C T I V E B R O K E R S L L C	248	1.53%

(注) 1.持株比率は自己株式(1,508千株)を控除して計算しています。2.特株数は千株未満を切り捨て、持株比率は少数第3位を四捨五入して表示しております。

会社概要

商 号	日華化学株式会社
資 本 金	28億9,854万円
所 在 地	〒910-8670 福井市文京4丁目23-1
T E L	(0776)24-0213(代)
事業内容	1. 繊維工業用界面活性剤の製造、販売 2. 金属、製紙、塗料、染料、合成樹脂用界面活性剤の製造、販売 3. クリーニング、業務用洗剤の製造、販売 4. 化粧品・医薬品の製造、販売

役員

代表取締役社長	江 守 康 昌	取締役(社外)	岡 子 恭 一
代表取締役副社長	龍 村 和 久	取締役(社外)	相 澤 馨
取 締 役	片 桐 進	取締役(社外)	山 岡 美 奈 子
取 締 役	澤 崎 祥 也	取締役(社外)	坂 本 修 一
取 締 役	李 晶 日	監 査 役	宮 本 和 浩
取 締 役	稻 継 崇 宏	監査役(非常勤)	川 村 一 司
取 締 役	藤 森 大 輔	監査役(非常勤)	増 田 仁 視

発行/日華化学株式会社 発行月/2023年9月 通算45号

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2023年1月1日から 2023年6月30日まで
売上高	24,917	24,306
売上原価	16,940	16,727
売上総利益	7,977	7,579
販売費及び一般管理費	6,590	7,146
営業利益	1,386	432
営業外収益	466	361
営業外費用	29	27
経常利益	1,823	766
特別利益	143	3
特別損失	28	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,058	285

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年12月期から適用しております。

連結キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2023年1月1日から 2023年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲126	1,759
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲110	▲501
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲465	▲1,415
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,244	6,448

株式の状況(2023年6月30日現在)

発行可能株式総数	44,932,000 株
発行済株式の総数	17,710,000 株
株 主 数	4,149 名

株主メモ

事 業 年 度	毎年1月1日から12月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年3月下旬
基 準 日	定時株主総会:期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4-1 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電 話 照 会 先	フリーダイヤル 0120-782-031 ※取次事務は三井住友信託銀行の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場・名古屋証券取引所 プレミア市場
単 元 株 主 数	100株
証 券 コ ー ド	4463

【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について】株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申出ください。
【未払配当金の支払について】三井住友信託銀行にお申出ください。

CP(IR情報フォーマット)▶



<IR活動アンケート>

今後のIR活動の参考にさせていただきます。
皆様のご要望等をご記入いただけます。
様、よろしくお願ひ申し上げます。▶



日華化学株式会社
NICCA CHEMICAL CO., LTD.

さらに詳しい情報・バックナンバーは
www.nicca.co.jp